

私はこう考える——時事インタビュー

批林・反ソ一色の十全大会

中嶋嶺雄

(東京外国語大学助教授)

——今度の中国共産党の十全大会は異例の大会だったといわれていますが……。

中嶋 まず大会期間が五日間と、非常に短かったことですね。二十数日、あるいは四十数日というのが通例です。しかも、従来ですと、大会が開かれるということは、事前に公表されている。前回の九全大会の場合、外国の報道関係者は一切締め出されましたが、それでも新聞公報が三度にわたって発表されました。大会が開かれているということはだれでも知っていた。ところが今回は極秘のまま、事後公表されたわけです。北京のどこで開かれたのかさえ明らかにされていない。そういう外面的な

問題をとっても、中国共産党史上、異常な大会だったと思います。

しかし、もっと重要なことは内面の問題ですね。周恩来の政治報告、王洪文の党規約改正報告、それに新聞公報という三つの基本文献を見て感じることは、中国が当面している国内建設の基本問題、対外関係の基本的にもかわらず、ほとんどそういう色彩がなかった。内政的には林彪批判一色、対外的には対ソ批判一色の一大儀式を行ったという感じですね。そうしますと、儀式であるからには問題の核心は他にあったのではないか。そして、問題の核心は他にあっ

たにもかかわらず、だれも一致するような問題をあえてクローズ・アップすることによって、儀式を行ったのではないかという気がします。

では、問題の核心は何か。現在の中国共産党の中がまだ非常に流動的であって、特に穏健派と急進派の対立という俗に考えられている問題についても調整がつかないのではないか。そういう調整がつかない状況で開かれた大会であっただけに、今度のような異常な形になったのではないか。

周恩来の政治報告にしても十分準備されたものとは思えません。随所に論理的矛盾があります。従来、政治報告は報告者が一定の路線を提起するのを例としています。今回の報告は、論理的矛盾をおおいかくすことに気がつかって、周恩来らしさのない、余裕のないものであった。このことは、現在の中国が非常に多くの問題をかかえているということを示唆している。党大会の約一カ月前に北京で重要な会議が開かれていたらしいという情報もあり、もしかすると中国は人民代表大会を準備していたのかも知れません。その過程で決着がつか

て当面の問題を凍結し、調整したのではな
いか、という推測もできません。

——林彪が数十年前までさかのぼって断
罪されていますが、これは九全大会で
「毛沢東同志の親密な戦友であり、後継
者である」と党規約に定めたことと矛盾
しませんか。

中嶋 林彪事件がいかに深刻な傷あとを
残したか、今回の大会はそれをありありと
示していますね。九全大会で林彪を後継者
に定めた事実、文化大革命では全面的奪権
闘争の先頭に立ち、それによって毛沢東は
危機を脱することができたという事実、そ
ういう客観的事実はみんな知っている。
しかも、数十年にわたって反革命・陰謀家



だったとすると、だれよりもまず毛沢東や
周恩来に責任があるわけで、その責任を問
うことなくして、林彪だけを悪者にしてゆ
くことに、革命の過程、人民共和国成立以
後の政治の過程との間の矛盾が出てきてい
ると言えますね。

——軍の動向はどうですか。

中嶋 林彪事件の真相は依然として謎で
すが、つきつめて言えば、軍官僚対党官僚
の激烈な対立・矛盾、特に文革以来、軍が
非常に大きな力を占めてきたことにたいす
る党官僚の危機感が調整がつかない、とこ
ろまで高まり、その結果、起きた一種の予
防クーデター、これが林彪事件だと私は見
ます。現在、林彪以降の軍のリーダーシッ
プは空白です。名目的には葉劍英、あるいは
人民解放軍の総政治部主任であった李德
生などがリーダーシップの中に入ってきて
いますが、依然として国防の最高責任者が
だれであるかは決まっていない。許世友と
か陳錫聯のように、地方に根を張った軍指
導者も大会に出てきているだけに、一旦緩
急あればこういう軍人が問題を提起する
のではないかという気もしますが、まだそ
のへんは流動的ですね。

——毛沢東の後継者がだれか、注目され
るところですが……。

中嶋 十全大会の指導体制は、毛沢東後
の時代を考えた暫定的、過渡的な集団指導
体制です。世上、王洪文が毛、周に次ぐナ
ンバー3と言われていますが、これには疑
問があります。王洪文をあそこに据えたの
は、いままでも後継者問題では劉少奇、林彪
など問題が多かっただけに、党規約改正報
告者という地位を他の指導者が占めると、
そのことによってまた問題が起きてくる。
それを避けるために、王洪文という若きブ
リンスを起用した。彼の政治的基盤や実力
によってそうなったとは私は思いません。
いわば当て馬だと考えていいと思います。
後継者問題はまだ未知数で断定的なこと
は言えませんが、若い人の中からさがすと
すれば、王洪文ではなく張春橋に注目すべ
きだと思えます。彼は文革派と言われなが
らも、もっと広い基盤で着実な成長をとげ
てきていますし、今大会でも大会秘書長と
いう非常に重要な役割を演じている。しか
し、林彪事件の教訓があるだけに、だれか
一人に後継者をしぼるということは、当面
中国はしないでしょうね。(文責・編集部)